

## 研修報告

会 議 の 名 称	第3回小美玉市小学校（野田小学校・上吉影小学校・下吉影小学校） 統合準備委員会
開 催 日 時	平成29年11月8日（水） 10時00分～
開 催 場 所	成田市 義務教育学校下総みどり学園 西棟2階多目的スペース
出 席 者	<p><b>【出席委員】</b></p> <p>吉田 洋子      大曾根憲司      新井 淳子      宇野 和夫          中村喜代美      篠原みち代      久保庭裕一      藤井 敏生          幡谷 好文      石井 旭      高野 晴夫      大曾根慎悟</p> <p><b>【欠席委員】</b></p> <p>小石川寛則      小川 勲      長谷川明美      石井 正道          片岡 友加      三代田 久      佐川 栄治      成井 志野          古関 文暁      須藤美智代      柴森 浩志      白石 靖弘          久保田達雄      佐藤 正      青葉 宏一      砂田 和広          久保田英行      藤田 康広      赤羽 久志      中村 孝          風間 博身      細谷 省一      菅谷 正治      長島 幸男          山本 洋平      堤 憲之      佐川 美佳</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>長津 智之      中村 均      植田 薫      外之内信浩          内田 真基      戸塚 聡      田村 直弥</p>
協 議 案 件	・先進校視察
会 議 資 料	別 紙 （ 会議次第、 他 ）
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開      （傍聴者 0 人）

## 【開会行事】

### ○日程説明

○校長あいさつ（義務教育学校 成田市立下総みどり学園 藤崎修治 校長）

### ○概要説明

下総み まず、学校の宣伝となりますが、マスコットキャラクターがいます。「みどたん」という名前なのですが、昨年度末に生徒会が子供たちに色々なアイデアを募集して作り上げたキャラクターです。頭の「S」は、下総の「S」です。おでこの「M」は、みどりの「M」です。おでこにある触覚のようなものは、この地区で盛んな稲作、名産である稲穂です。ほっぺたは、バツ印のようになっています。本校の校章にもなっています。統合前の4つの地区、滑河、小御門、名木、高岡のそれぞれにあった小学校が統合して本校になっています。その4つの小学校が統合したという、統合のパワーをあらわしています。そして、赤い手袋には子供たちの願いが多く詰まっています。この手袋は、何でも掴めるグローブ。みどり学園で何でも掴めるようになるという思いです。そして、赤いスニーカーは、どこまでも歩いていけるスニーカー。子供たちがどこまでも自分たちの力を伸ばしていきたいという願いがあるのだと思います。

では、開校までの道のりをご説明します。平成18年3月、旧下総町、旧大柴町が成田市と合併し、この地区は成田市となりました。その後、平成20年、学校適正配置調査報告から、下総地区の4つの小学校の統合計画が示されました。当時の小学校は、一番小さい小学校では新入生が女の子1人、男の子1人という状況であり、小規模、過小規模といっても良いような状況にありました。一方で大きい学校では、学年20名以上という状況でした。そのような状況の中、この下総地区の教育を見直そうといった時に統合が示されました。平成20年7月から教育委員会が主導し、地区説明会や保護者説明会を実施しました。平成22年2月には、下総地区の区長会より統合の合意をいただき、下総の学校づくりが始まったという経緯になっています。

また、一貫教育となった経緯についてですが、先ほどの合意をいただいてから、「小中連携会議」というものを発足させました。当時、私は教育委員会において、この統合の担当をしておりました。そのため平成20年から、この地区の説明は全て私が出席させていただき、一緒につくっていきましょうという話を地区にしてきました。その時に趣旨、ポリシーとして掲げていたことは、「4つの小学校を統合しますが、下総でなければ出来ない教育をやりましょう、決して教育を縮小するわけではないです、子供たちにとって下総地区が誇りになるような学校教育をやりましょう、その中でこの地区でなら出来る教育は、小中の強力な連携です」ということです。当初は小学校と中学校を一貫した施設とするという案までは進まず、小学校1つ、中学校1つになるので、隣接させて造り、強力に連携しましょうという話としました。その中で先進地である品川区の伊藤学園や日野学園に見学に行き、また、小

中一貫教育サミットに参加し、平成23年には小中一貫でいこうという話になりました。連携教育は成田市全域で行っており、一貫は下総地区のみになっています。一貫と連携の違いを市教育委員会がどのように捉えたかという点、施設が一体であり、職員も一体となって教育に取り組める環境について、一貫教育という言葉を使い始めました。なので、後ほど説明しますが、本校は職員室が1つです。4年前から小学校、中学校の違いはありません。今は義務教育学校なので、職員室1つが当たり前ですが、そのように小中一貫教育校を設立する形になりました。一貫教育校をつくるようになった後、下総みどり学園開校までには、約2年間の時間がありました。各小中学校の全職員に5つの部会、「学校経営」、「教育課程」、「生徒指導」、「行事」、「地域連携」に分かれて参加していただき、どのようにして統合をスムーズに行っていくかといったことを話し合い、すり合わせを行い、学校のイメージをつくり、下総みどり学園が開校したということになります。

物理的なことを説明すると、旧下総中学校の隣にあった梨畑を購入していただき、下総中学校のグラウンドを移設しました。そして、旧下総中学校のグラウンドに旧下総中学校の校舎と連結した形で新校舎を造り、小中一貫教育の下地をつくっていただきました。そのように旧下総町に5つあった小中学校が下総みどり学園の1校に集約されました。みどり学園は、学区の中央に立地しています。たいへん学区が広くなりましたので、6系統のバスを使い、1年生から6年生までの通学補助をしています。7年生以上は部活動の関係もあるため、自転車通学となっています。徒歩通学は、10名にも満たない状況となっており、非常に少ない人数となっています。教職員数については、あくまでも千葉県の場合ですが、小学校にあたる前期課程、中学校にあたる後期課程、それぞれを小学校の定数、中学校の定数に当てはめ、それを合わせた配当をいただいています。それに加え、いわゆる加配をいただいています。小中一貫教育を強力に進めているということで、市配置教員も多数いただいております。県費48名、市費14名、合わせて62名の職員が勤務しています。

では、平成26年4月に開校してからの特徴を説明します。今年4月には義務教育学校として新たなスタートを切りましたが、最も大きな特徴は、施設一体型であるということです。千葉県内では3番目に開校した義務教育学校となりますが、県内唯一の施設一体型義務教育学校です。児童生徒の成長を家庭、学校、地域が一体となって見守っています。「小中一貫教育」という言葉を私たちは使わず、「9年間を連続した学び、思いを繋げる9ヵ年の教育」と言っています。小中学校はありませんので、9ヵ年の連続した思いを繋げる学びが下総みどり学園の当たり前なのだとこのことを地域の方々にも説明しています。

次に施設、指導体制面での特徴を説明します。先ほどもありましたが、最も大きな特徴は、9年間を同一の指導体制で過ごすことです。施設が一体であるということは、自然に子供たちの交流が生まれます。本校では、午後1時から清掃活動となります。日常活動として、1年生から9年生までを縦割り20グループに分け、一緒に過ごしています。この多目的スペースも1年生から9年生までが一緒になったグループで清掃をします。なので、他地区ではなかなか無いですが、本校を卒業した高校生が2年生や3年生に「○○

ちゃん、元気か」というように普通に声をかけます。本校で一緒に清掃や生活をしていたので、いわゆる子供たちの交わりのスクラムが9年に伸びています。そのため、地域との繋がりも非常に強くなっています。それが自然に行われています。休み時間は7年生、8年生、9年生と1年生と一緒に生活している状況なので、互いが気を使いながら、互いがふれあいながら生活しています。また、職員室は1つです。職員室にも工夫がしてあります。いくつかの島に分かれています。後期課程、いわゆる中学校の職員の前には、前期課程、いわゆる小学校の職員が座っています。つまり、職員室内の日常会話として、1年生はこのようなことを行っているといった話をしていて、後で進路の話をしています。職員が日々の生活の中で多くの学年の職員と触れ合えるようなつくりをしています。これを下総みどり学園の文化と言っていますが、大きな物理的な源になっています。

そして、もう1つの特徴がブロック制です。言葉が混同しやすいですが、義務教育学校の法的な制度として、いわゆる小学校の課程にあたる部分を前期課程と呼び、中学校の課程にあたる部分を後期課程と呼んでいます。その前期課程と後期課程を合わせた9年間で3つのブロック、1年生から4年生までの前期ブロック、5年生から7年生までの中期ブロック、8年生と9年生の後期ブロックに分け、それぞれブロック長を指名し、ブロック単位での活動を中心に教育課程を運営しています。

通常の学校では、1年生を迎える会といった行事は、6年生が中心となって運営されるかと思います。本校では、1年生を迎える行事を前期ブロックの行事と捉え、4年生を前期のリーダーとして育てながら運営していきます。その行事は、司会から全て4年生が中心となって行っています。また、来週に実施しますが、就学時健康診断があります。小学校入学前の子供たちと保護者を呼んで行いますが、それについても通常の学校では5年生、6年生が手伝いに入ります。これについても4年生が手伝いを行っています。できないのではないかという声もありましたが、日頃からリーダーとして育てているので、しっかりとやり切ってくれます。中期ブロックは、いわゆる小学校5年生、6年生と中学校1年生にあたる7年生となっています。合同の行事としては、5年生と7年生が小見川にある宿泊施設で合同の宿泊行事を行います。7年生が5年生をリードしていきます。後期ブロックでは、9年生をブロックのリーダーという意識より、みどり学園のリーダーという意識を持たせて指導しています。様々な行事で9年生が活躍してくれます。この部屋に入っていた時に合唱曲を流していましたが、9年生の学年合唱です。昨日、成田市が所属している二部会というものの音楽発表会があり、そこで録音してきたものです。本校の子供たちは、のどかと言えばのどかですが、田舎と言えば田舎に住んでいます。なかなか他の学校の子供と触れる機会がないので、緊張するのではないか思いました。ところが、9年生は非常に自信を持った顔で歌いに行きました。後で聞いたところ、役員の方が挨拶をする時など、それに合わせて号令をかけて挨拶をしていた学校は、本校だけということを知り、自分達で気が付き、「僕たちがやっていることは、すごいことかもしれない、皆で頑張ってお歌うぜ」と言い、一生懸命歌ってきたということでした。非常に素晴らしい歌声でした。9年生がそういった意識を持っているということが、私たちは嬉しいと思っています。少なからず

小中一貫を行っている結果も出てきているのかと思います。  
もう1つの特徴としては、授業時間です。1年生から9年生までが生活しているのです。授業時間が45分と50分となり、朝と昼の2回のチャイムとしています。それ以外は、1年生もノーチャイムで生活しています。これも難しいのではないかと思います。子供たちは時計を見るようになります。1年生、2年生を校外学習に連れていく時には班毎に時計をつけさせます。1年生、2年生はあまり腕時計を見て生活をする機会はないと思いますが、2年生はきちんと時計を見て動きます。また、5年生からの教科担任制を行っています。5年生から小学校の担任交換や専科など、ほとんど中学校と同等の教科担任制を導入しています。そして、5年生からは、通常の小学校よりも多い50分授業で行っています。また、中学校では、いわゆる定期試験、中間、期末テストがあると思います。それを本校では、5年生から行っています。システムが教科担任制になったことにより、以前の小学校とは変わっていますが、専門的な教員が教えるため、学力的にも非常に効果をあげています。また、新しい学習指導要領では、小学校において、英語が必修となってきます。本校では、英語の専科教員と専門のALT教員が1年生から6年生までの英語を全て教えています。担任はTTとして授業に入ります。体育、家庭科、音楽は、専門の教員が全て教えています。そうした結果、5年生、6年生を専門の教員が教えているので、7年生になった際には、基本が確実にできています。そのように、学習の深まる経験には、他の中学校にないものがあります。

また、本校の大きな特徴の1つに異学年交流があります。全校縦割り清掃、先ほどもありましたが、20のグループで毎日行っています。それから、上級生と下級生が学び合う場面を多く取り入れています。左下の写真は8年生が4年生に本の紹介をしている様子です。この授業の前に、どのような話をするかという学習をします。日常的にこういったことをすることで、4年生が上級生になった時には、これが当たり前になっています。下級生、上級生が互いに学び合うということが本校の大きな教育活動の中心の1つです。先週金曜日には公開授業を行いました。協同的な学び、いかに協同して学びを深めていくかというテーマで公開研究会を行いました。その他に特色あるものとしては、生徒会・児童会と呼ばず、5年生から生徒会とし、一貫、集約して行っています。生徒総会も5年生から出席しています。部活動にも5年生から参加できる形になっていますが、先ほどのスクールバスの関係があり、月に1回、2回程度しか参加できない状況になっています。大きな行事をいくつか紹介します。4月に全校遠足を清掃の縦割り班で行っています。2km、3kmの短い遠足ですが、疲れた1年生をおんぶする8年生、9年生の姿が見れるなど、とても微笑ましい様子が見られます。また、最初はできるのかと言われましたが、1年生から9年生と一緒に体育祭を行っています。これは、9月の第1土曜日に行います。つまり、7日間の準備期間で小学校1年生も本番になります。通常の小学校の先生の間では、1週間の練習期間で行うことは無理ではないかということがありますが、夏休み前から計画的に準備を行います。暑さ対策はどのようになっているのかということもよく伺いますが、地域の方に協力していただいてテントを張り、子供たちが炎天下の中でただ立っている状況はありません。また、先日、音楽祭を行

いました。これには、5年生から参加します。5年生、6年生が8年生、9年生のいわゆる変声期が終わった混声合唱に触れます。5年生、6年生は、9年生に純粋な憧れの気持ちを持ちます。「なんてカッコイイのだろう」、「なんて素敵なのだろう」、「僕たちもあぁなりたい」という気持ちで音楽の授業や行事に一生懸命取り組んでいます。また、各ブロックを締めくくる行事を行っています。これが実は統合した時に1番揉めた部分です。本校は小学校の卒業式を行いません。9年間で育てると言っても、小学校の先生にとっては、6年で区切りがほしいのです。「なぜ卒業式をやらないのか」といったことがありましたが、9年間で育てるので、6年は区切りではありません。法的な区切りはありますが、本校の教育課程上の区切りではありません。しかし、竹の節のように、しっかりとした区切りは必要です。そこで、本校では各ブロック毎の締めくくりの行事を行っています。前期ブロックの締めくくりの行事が1/2成人式、中期ブロックの締めくくりの行事が立志式となっています。保護者を呼び、各ブロックの仕上げの行事として位置付けています。今年からは、法的に小学校の卒業証書が発行されません。義務教育学校前期課程の修了証書はありますが、卒業証書は9年生のみとなってきますので、この区切りの行事を大事にしていきたいと考えています。また、地域との絆ということで、リサイクル活動を先々週に行いました。地域の方、生徒、PTAと一緒に年4回行います。嬉しいこととして、多くの本校卒業生が参加してくれています。地域との絆は大きいと思います。右上の写真は、下総の建設協会の方々です。土日に来ていただき、「すのこがないみたいだから、作ってやるよ」といったように、材料費だけで作ってくださったりしています。地区の祭りや敬老会にも参加をしています。ちなみに、運動会の入場門等は、本校の職員ではなく、建設協会の方が前日に来て、専門の方が素早く作ってくれています。運動会が終わる時にも来てくださって、子供たちに話している間にバラバラにしてくださっています。本当に地域と一体となっています。

### 【授業・施設見学】

2グループに分かれ、授業・施設を見学

### 【質疑応答】

下総み まず、事前質問に答えさせていただきます。また、事前質問以外に質問がありましたら、その後お聞きしたいと思いますので、よろしくお願ひします。では、質問順に沿って、答えていきたいと思ひます。

「学校経営方針の統一はどのような行程で行いましたか。」という質問については、概要説明でも出てきましたが、平成23年8月に成田市教育委員会主導の下、地区代表、保護者代表、小中教員、教育委員会で組織される「下総地区小中連携推進委員会」を立ち上げ、計17回の会議を行いました。小中一貫教育の実施や通称名、校章などの様々な事項についての協議、決定をしながら、準備を進めてきた経緯があります。

「物品の処分や管理をどう進めていきましたか。」という質問ですが、統合小学校を開校するにあたり、スクールセットは全て新しいものを購入しました。必要な物品については、各小学校から持ち寄って使用しています。新規購入するものもあったことから、必要のないものを各小学校に据え置き、市教育委員会の管理の下、必要のある小学校に使い回している状況です。基本的に教育委員会で管理しています。

「統合前の各小学校でのそれぞれの備品（理科実験器具、体育器具、楽器、図書等）は、統合小で使用しているのですか。」という質問についても、先ほど述べさせていただいたとおり、現在も使用しています。私は、3、4年生の図工を担当していますが、以前の小学校名が入ったものも多くあり、それを使用している状況です。

「統合する学校間での調整会議等はいつごろから始めましたか（教育課程）。」という質問がありましたが、平成24年1月より、成田市教育委員会主導の下、各校の教職員が中心となり、教育課程部会で協議を重ねてきました。その部会も5つの部会の1つとして機能し、協議を重ねています。詳しくは、本校のWEBページに載せていますので、ご覧いただきたいと思います。

「家庭との連携は統合前・後で変化はありますか。（やりにくくなったとか、良くなったとかありますか。）」という質問ですが、開校当初は、統合したこともあり、一部から「以前は一人一人きめ細やかに見てもらっていたのに」、「小さい子が大きい子の悪い影響を受けるのではないか」といった心配があったかと思えます。また、「小学生にとっての体育祭の準備期間が短くて、内容も厳しい」という指摘があったことも事実です。現在は4年目を迎え、小中一貫教育制度についての意見等はほとんどどない状況に等しく、むしろ好意的に受け止められています。

「生徒数（児童数）が増えた事による、指導・管理上のメリット・デメリット（理解度格差、いじめ対応、連携・共有の取り方など）は何ですか。」と「統合してからのメリット・デメリットは何ですか。」という質問について、併せて説明させていただきたくします。メリットは、多くの子供たちと接することにより、個々の人間性が養われる。クラス替えができることで、切磋琢磨できる。それまでは単学級の学校がほとんどだったので、そういったメリットがあります。それから、クラスメイトがたくさん増え、楽しさが増える。行事なども盛り上がり、学校生活全てに活気が生まれる。学習面では、多くの授業形態が可能になる。各学年が複数クラスになったことにより、授業内容の充実が図れるようになってきている。さらに、対外的な大会等の成績が良くなり、意欲が増してくる。保護者の交流が広がり、視野の広がりが期待できる。小規模校で面倒を見られすぎていた児童の自主性が増す。丁寧に指導していただき、なかなか自分から主体的に動くことをしづらくなっている環境から、児童が多くなり、自主性が増すことが期待できるのではないかと、いったことがメリットだと考えています。デメリットについては、スクールバスを登下校で各2便運行している関係があり、高学年が朝7時に学校へ着きます。なので、早い子供は、6時40分くらいにバスに乗っている状況となっています。また、下校も低学年が下校した後に高学年が下校するということで、一斉下校がしづらい状況になっています。それから、バス通学により、職員の出退勤時間が時間外になってしまうことが多くあります。児童が

学校に来ており、職員が来ていない状況は良くないため、それを見越した上で職員も早く来ています。また、学校生活のあらゆる活動において、それまでよりも時間がかかるようになりました。ただし、これは開校当時のことであり、4年目の現在は解消されており、時間がかかることはなくなってきています。統合によって、行事の前年度踏襲ができないということもあります。教員の精神的な負担は大きくなります。これについても、軌道に乗るまでは大変かと思いますが、本校は既に軌道に乗っているため、負担は感じていない状況になっています。それから、義務教育学校になったこと、小中の行事を行うことで、管理職の負担は出てきているかと感じています。

「授業参観は、どのように行っていますか。」という質問ですが、本校では一学期に全学年、1年生から9年生まで一斉授業参観を実施しています。それから、学校公開を6月に3日間実施しています。自由に見ていただき、ご意見をいただく期間を設けています。二学期には音楽祭、文化祭を実施しています。その際は保護者に呼びかけ、参加していただいています。三学期には、1年生から8年生の授業参観を実施している状況です。

「体操服は1～9年生まで同じデザインですか。保護者からの意見はありましたか。」という質問ですが、1年生から9年生までが同じデザインで統一しています。保護者からは、7年生になる段階で買い替えがないということで助かっているといった意見をいただいています。

「PTA組織はどのようになっていますか。小・中別々ですか。1つの大きな組織ですか。」という質問ですが、PTA組織は小中で別々ではなく、1つの組織で運営しています。統合前の学校規模を鑑み、各役員、委員の定数を定めています。副会長については、統合前の小学校から各1名ずつ選出するといった取り決めを行っています。今年度から義務教育学校として新たにスタートしているため、PTA組織の改編に着手しているところです。役員が多いのではないかとといったこともありますので、それも含めて見直しを図っているところです。

「所持教員免許の関係で1年生から6年生、7年生から9年生の指導方法は、どのようになっていますか。(教員は低学年から高学年まで指導するのかなど。)」という質問ですが、本校は5年生から段階的に一部教科担任制を実施しています。特に美術、音楽、家庭科の技能教科については、専門性を活かし、中学校免許を持つ専門の教員が5年生から9年生までを1人で一貫して指導しています。音楽については、3年生から専門の教員が指導している状況となっています。他にも7年生の社会科担当が6年生の社会も指導している、7年生の副担任が1、2年生の体育を指導している状況もあります。また、小中双方の免許を所有する職員の中には、6年生、7年生、8年生と引き続き担任する職員もいます。

「部活指導の参加について、どのような制限があるのですか。」という質問ですが、部活動は5年生以上が参加しています。教員の指導については、5年生以上の担任及び講師が基本的には参加するようになっています。ただし、先ほど二部会と説明させていただきましたが、その部会大会または郡の陸上大会、または市のミニバスケットボール大会などについては、4年生以下の教員も加わる時があります。基本的には5年生以上の担任または講師で構成されています。



「義務教育学校となり、先生方の負担が増えたということはありませんか。小学生にあたる学年の担任の先生が、部活動を担当しているが、例えばクラスで子供同士のトラブル等があって保護者への報告等が必要となった時、ただでさえ忙しい仕事がさらに忙しくなってしまうという事等がありますか。」という質問について、小中一貫校として3年の積み重ねがあることもあり、義務教育学校になってから新たに先生の負担が増えたということはありません。部活動には複数の顧問が配置されているので、保護者対応がある場合、他の担当者が部活動を見ることが出来ます。臨機応変に対応できると考えています。ただ、部活動の指導については、全国的にも言われている「負担を増やしているのではないか」ということがあり、負担軽減の方策を検討していかなくてはならないかと考えています。

「3年前の小中一貫校から短期的に義務教育学校に移行した理由は何ですか。」という質問については、最終的には市の方針によるものなので、詳しくは成田市教育委員会に聞いていただきたいと思えます。

「義務教育学校になって短期間ですが、現時点で改善点などはありますか。」という質問についてですが、特にありません。

「義務教育学校の運営にあたり、メリット、デメリットについて」という質問ですが、メリットは、教科担任制を考える際、小中間の人事交流が校内人事で済んでしまうということかと考えています。デメリットについては、大きな問題ではないですが、実際に本校で起こっていることとして、各種団体へ校種変更の周知が必要になってくることかと思えます。大会で賞状に「学校」と入りますが、本校の名称は「学園」なので、その度に団体に連絡を取り、改めて賞状を出してもらおう状況が生じています。

「スクールバスがあるようですが、体力低下等見られますか。」という質問ですが、スクールバスと体力状況の因果関係は定かではなく、特に感じていないところではありません。特段、下がったというデータもありません。

「前期ブロックの児童はスクールバスのようですが、中期ブロック児童は歩き登下校ですか。」という質問ですが、先ほど説明したように、スクールバスは、1年生から6年生までが乗る事となっています。ただし、近隣の歩いて登校できる範囲に住んでいる子供に関しては、徒歩で登校しています。今年度は、88%がスクールバスを利用しています。

「職員の構成は何を基準にしたのでしょうか。」という質問ですが、これは校長から回答させていただきます。

下総み

職員の構成ということなので、人事に関わる事かと思えます。いわゆる加配や定数については、県の教育委員会に当初、統合に際し、きめ細かな指導にするための加配を各学校1名、計4名の配置をお願いしましたが、配置いただけませんでした。なので、現在、統合による加配はありません。その代わりではありませんが、統合による加配は3年しかないもので、それについては要らないということが当初からあり、小中一貫や専科などの教育課程の特色を活かす加配を継続的にいただきたいという考えでした。現在は、小中一貫教育の加配、小学校専科の加配、特別な通級を行うための加配、生徒指導を全体的に見るための加配を2名、計5名の加配をいただいているところです。他の定数は、前期課程は小学校、後期課程は中学校と同じです。

下総み

「用務員さんの役割は、どのような業務をしているのですか。」という質問

については、主に花壇の手入れや給食の補助等をしています。義務教育学校としての特徴的な仕事はなく、他校の用務員の仕事と変わりはありません。事前質問に対しての回答は以上となります。これ以外で何か質問等はありませんでしょうか。

小美玉 スクールバスの運行距離はどのくらいですか。最も遠いところから通っている方は何kmくらいなのでしょう。

下総み スクールバスは、時間にすると30分くらいとなっています。先ほど、早い子供は7時に学校に着くという話をしましたが、7時に着き、子供を降ろした後に第2便として同じバスが回ります。そうすると、その場所に行くまで30分かかります。子供を乗せて帰ってくるので、1ルートに1時間必要となります。なので、1便目が7時に着かなければと厳しくなります。

小美玉 7年生から9年生は、自転車で30分では着かないですね。

下総み 自転車は、もっとかかります。

下総み 最も遠い子供で6kmくらいとなっています。

小美玉 スクールバスの利用は無料としているのでしょうか。

下総み 「一切ご家庭に負担はかけません、経済的な負担はかけません」ということで行っているのですが、当初からスクールバスの料金をもらうことは考えていませんでした。成田市として、統合による経済的メリットは全くないと思います。「統合すれば、市は財政的に楽になるだろう」と言う人もいましたが、そういったことはありません。

小美玉 学校医が決まっているようですが、これについてはメリットがあるのでしょうか。

下総み 本校の子供をよく見ていただいているということ。また、特別な例かもしれませんが、ある学校医はSLが大好きで、自身でミニSLを整備しています。小さい子供が招待してもらい、乗せてもらうなどしています。そのくらいの密着度がある付き合いをさせていただいています。

小美玉 登校範囲内にある病院の医師でしょうか。

下総み この地域には耳鼻科などが無いので、地区外の医師に来ていただいています。

小美玉 学校要覧のP1に学校教育目標と書いてあります。こういった学校経営方針等は、前任が行っていた今までの内容があり、校長が代わったタイミング等で微調整をしたり、引継ぎをしたりしながら、変えるところは変えていくものと理解しています。今回は1から作るようになってきます。最初は、どういった人達を中心となり、基本的な考え方を作り出してきたのでしょうか。

下総み 先ほど説明した中の学校経営部会に市教育委員会の管理職や各学校の校長、教頭が集まり、こういう学校を求めているというところで、学校のイメージ作りを行いました。その中で文言の整理をある程度していますが、最終的には校長が速やかに提示できるようなところまで詰めていたところです。

小美玉 そこを基本として、最終的に着任した校長の考えと教員たちと話し合いながら調整し、スタートしたということでしょうか。

下総み ポリシーとして、完成形ではないということ承知してスタートしています。修正主義と言ったら良いか、やってみることに関し、結果を恐れなくていいということが当初からありました。「やってみて駄目だったら、変えれば良い。我々は初めてのことをやるのだから、子供のことで失敗できな

いけれども、より良いものを求めるためには、試行錯誤がある程度必要。その説明は管理職が行うので、これが良いだろうということはトライしてみよう」ということがあった。当時の校長、教頭は、やってみて無理だったことは、保護者への説明も含め、臨機応変に行っています。今は、スタンダードのようなものが出来上がりつつあるので、今年の4月からは、ほとんど変更していません。

小美玉 学年区分について伺いたいと思います。この学園は4-3-2という学年区分だと思えますが、それを決定した根拠といったもの、また、実際に4-3-2が良かったのか、悪かったのかということをお聞きしたいと思います。もう1点、これは市の職員の方になるかと思いますが、統廃合後の跡地利用については、どのセクションが、どのような議論を行っているかということについて、聞かせていただければと思います。

成田市 統廃合後の跡地利用についてですが、統合させるにあたり、下総地区と同じように推進協議会をつくって地元と協議をしていく中で、やはり跡地の話が出てきます。「統合した後、跡地についても検討し、地元へ提示していきましょう」という話をし、「まずは統合に向けた様々な協議をしていきましょう」という流れで教育委員会はやってきました。統合して跡地となった際には、様々な問題が出てきます。教育財産ではなくなり、市の普通財産となるため、それをどうするかということについては、市全体で考えなくてはなりません。行政需要や地域の要望もあり、非常に難しい問題が出てきます。最初の統合は、豊住中という学校が平成21年に行いました。そこを閉校した際、そういったことには全く触れませんでした。そのため、地元の人達に跡地について考えてもらおうとして始めました。地元と一緒に考えていくと、地元の方も色々と情報を収集していく中で、「こんな施設が良いな」といった夢が膨らんでいきます。ただ、財政的な限界もあり、実際にそれをつくった後の費用面を考えると、なかなか難しい。その要求どおりに答えられないというジレンマがあり、すごく長い時間がかかってしまいました。ようやく今年度に施設が出来上がり、8年程度かかってしまった状況にあります。それ以外にいくつかの跡地利用があり、同じように地元と協議していく中では、非常に時間がかかりました。そのため、下総地区の4校、閉校した学校からは、市が計画を作り、それを地元へ提示するという流れになっています。企画政策課という市の中核の部門が中心となり、各課と連携を取りながら、計画を作り、それを地元へ提示していく流れになっています。

下総み 学年の区分についてですが、義務教育学校は日本全国で48校あります。その中で約8割が4-3-2制、残りの2割が6-3制となっています。本校は4-3-2制を導入しています。統合の際にも話をしましたが、いわゆる中1ギャップが明確にあります。実は、平成20年に統合しようという話をした時、この中学校は荒れていました。小学校の保護者からは心配する声がありました。「何故、そのようになっているのか」、「あの素直だった子供たちが何故で中学校で変わってしまうのか」、小学校は中学校のせいだ、中学校は小学校のせいだといった議論というものはよくあると思います。しかし、「違うのではないか、皆で一緒に考えよう」という中で、「やはり子供たちが6から3に行くステップは大きい」という認識に至り、9年間を通して行うことによって、ステップ小さくできないだろうかということになり、1

つの区切りを4にしました。6と7の繋がりをどのようにするかということで、5年生、6年生、7年生のブロックを最初に決めました。8年生、9年生は短いけれども、学校のリーダーとして育てるので2年としました。その結果、いわゆる中1ギャップは無いに等しいと思います。6年生は卒業式がないので、終業式まで出席し、7年生は始業式から出席します。ただの進級なので、ステップはありません。それから、5年生から教科担任制を行い、段階的に多くの職員と関わります。なので、6年生から7年生になった時に突然、色々な先生と出会わなくてはならないといった形になりません。また、例え不安になった場合も、去年、一昨年に教わった先生がいるので、上手く使うことができる。そういったことを可能としています。今後もそれについては、継続していきたいと考えています。

小美玉 6－3制の場合、中学校へ進学する時に自転車あるいは制服等の問題が家庭ではあると思いますが、義務教育学校となると、7年生から制服ということが基本となるのでしょうか。

下総み それについては議論がありました。現在、成田市内では、大栄地区という地区が平成33年度開校に向け、義務教育学校を計画し、工事も行っているところです。そこでの議論の中で、5年生から制服を着用するかどうかということもあります。その地区の小学校は、1校だけが制服の学校でした。私服の小学校と制服の小学校が統合するので、どちらに合わせるかという状況になっており、ハードルが低くなっています。本校の場合は、5年生からとなると、活動面や子供の身体も急激に大きくなってくる、経済面もあるので、しばらくはこの形でいこうかと思っています。

小美玉 体操服のデザインは統一されているということですが、開校時に一気に変えたのでしょうか。それとも、なだらかに変えていて、今も以前の学校のジャージを使っているような方はいるのでしょうか。

下総み 中学校と同じデザインとしたので、ほとんど一斉です。以前の小学校のものを着ても良いという形で行っていましたが、ほとんど着ていませんでした。「どちらにせよ、9年間着るのだから」ということで、保護者も早めに切り替えていました。デザインは9年間一緒なので、5年生で新しいものを買っても、9年生で新しいものを買っても着られますので、そういったメリットは出たかと思っています。

12:03 閉会